

「健康」と「仕事」と「収入」の関係は――筋縄では……

気温が上がり、湿気が高くなる――倒れる仲間も増えてくる？

血圧計を設置して、「血圧計友の会」ともいべき現象が見受けられるようになった。計る人は頻繁に計る。健康管理に意識がむくということはいいいことではあるが、血圧が明確になって困惑する事態もでてきた。

設置している血圧計は、元々少し高めに出るようなのだが、それを割り引いても高すぎる人が、数字で具体的に把握されるようになった。たとえば、血圧には上と下があるが、下が115以上の人がいる。

産業医といわれる人達が読む雑誌に掲載されている「就労管理基準」によれば、他に病気(臓器障害)がなければ、「定時勤務・中労働作業以下、または普通勤務・軽労働作業」に従事させることができるということになっている。

「臓器障害」というのは、「心不全・虚血性心疾患・脳血管障害・腎症・網膜症」を指すらしく、「障害度」が設けられており、下が115以上で臓器障害度2であると「休業」ということになる。障害度3では、「休業(入院)」。

血圧は血圧計でわかるが、「臓器障害度」はわからない。血圧が高いと、血管が破裂しやすい。身体のどこでそれが起こるかわからない。血圧の高い人は、継続的に医者に見てもらわなければならない。

輪番就労は、仕事をしてもらって賃金を支払う制度だ。軽作業が中心だが、炎天下の屋外労働となると、かなりきつい。仕事には一日ごとの区切りとか予定がつきもので、一番体調の悪い人を基準に作業を進めるということは、できにくい。

血圧が極端に高く、臓器障害のある人が安心して「休業」できる仕組みが、今の釜ヶ崎に充分あるかという、はっきり「ある」とはいいいにくい。

輪番就労が、野宿を余儀なくされている仲間に、限られたものであれ収入を得る機会を提供するという側面を持つものである以上、体調不良をもって「あんたは雇えない」ということはしにくい。

しかし、「休業」相当の人に無前提で働いてもらうこともまた、適当ではない。医療センターで診てもらい、福祉部門と相談して、「休業」の道を求める努力をしてもらう必要がある。それでなお、働かなければならない場合は、スタッフに申し出てほしい。そうでないと、体調に配慮することができないから。「健康」管理は、仲間をばしきだすためにあるのではない。が、就労がすべてではない。

SARS(サーズ)が少しだけ身近な問題になった？

中国を中心として問題となっている病気、重症急性呼吸器症候群(SARS)は、日本国内では関係ない話とおもっていたら、急に身近な話題となりました。

関西を観光旅行していた台湾人医師が、5月9日に日本国内で発症していたことが帰国後明らかになったからです。

「都ホテル」「大阪城」となれば、生活圏内。もっとも、都ホテルといっても、天王寺駅や近鉄阿倍野駅の東にある都ホテルではなく上本町のものだということで、ちょっと離れた感じがしました。天王寺駅の都ホテルだったら、天王寺公園や動物園を散策したかも知れず、野宿を余儀なくされている仲間も感染する可能性があったこととなります。

大阪城では30分くらいしかいなかったようですから、咳やくしゃみによって飛び散った唾液が、野宿を余儀なくされている仲間に付着したという可能性は極めて低そうです。

SARSの潜伏期間は2～7日間と考えられています。最大で10日間発症しなければ大丈夫とされているようです。

発症した医師が日本を離れたのが5月13日。ということは、二十日を過ぎて、日本国内で発症が確認されなければ、日本国内への影響はなかったということになります。

しかし、今後のこともあります。1998年には、野宿生活者の間で赤痢が流行ったことがあります。そのとき流行った赤痢菌は、東南アジアでは一般的な赤痢で、現地の人は軽い下痢をする程度で済む場合が多いようですが、体力の弱った野宿生活者にとっては、より体力を消耗する頻繁な下痢を引き起こしました。赤痢が、どのような経路で広まったものか、把握しきれなかったようです。

サーズについても、どのような経路で二次感染がひろがるかは、結果でしか把握できません。発症してからでないとうからない。予防は、手洗いとうがい。

問1 SARSの症状はどういうものですか？

答 SARSの主な症状は、38 以上の高熱、痰を伴わない咳、息切れと呼吸困難です。また胸部レントゲン写真で肺炎の所見が見られます。SARSには、頭痛、筋肉のこわばり、食欲不振、全身倦怠感、意識混濁、発疹、下痢など他の症状が見られることもあります。

問2 SARSの感染力はどの位ですか？

答 現在分かっている範囲では、感染した人との濃厚な接触で人から人に病原体が伝播すると考えられます。感染した人の飛沫、体液に接触することが感染の重要な原因とみられています。今のところ患者の大部分は、SARS患者に医療行為を行った病院スタッフ、患者と接触のあった家族の人達です。しかし、どの位の量の病原体によって感染が引き起こされるのかは分かっていません。

(厚生労働省のホームページから)

患者から2メートルの範囲が、感染する可能性が高いとされているようです。

英国ビッグイシュー創設者ジョン・バード氏講演会、5月29日午後6時から、大阪市立難波市民学習センター(JR難波駅うえOCAT4階)。参加費500円。後援:大阪府・大阪市・連合大阪・(財)大阪都市協会・NPO釜ヶ崎支援機構・シチズンワークス・(社)日本都市計画学会関西支部・インターシティ研究会・NPOガイアアクセス。